



日時 平成 29 年 10 月 31 日 (火) 13:30~16:30

テーマ 「通級における構音障害への指導」

講師 近畿大学医学部附属病院リハビリテーション部 言語聴覚士 久保田 功 氏

SSC 公開講座 203「通級における構音障害への指導」を京都府スーパーサポートセンターで開催しました。通常の学級に活かせる通級指導の事例シリーズの 2 回目です。講師は、近畿大学医学部附属病院の言語聴覚士、久保田功先生です。小学校の通級指導教室担当の先生方を中心に 26 名が受講しました。

まず前半は、構音と構音障害の基礎知識についてお話されました。構音発達の傾向や、構音障害の種類、考えられる原因について丁寧にお話しいただきました。今回は構音障害のうち、原因不明で発達途上に現れる機能性構音障害が中心でした。通級に通っている構音障害のある幼児児童によく見られるものです。構音障害の評価では、子どもの何を調べるのか、どのような検査をしてどう整理し分析するのかという具体的な方法を提示いただきました。構音検査、構音器官の形状、聴覚的語音弁別、置換か歪みかの見分け方、側音化構音の確かめ方等、実際の検査場面のビデオを見ながら、どう評価するかを詳しく教えていただきました。評価の実習では、実際の子どもの声を聴きながらどの音がどう間違っているのかを受講者が聞き取りました。実習をすることで、教室にいる子どもの構音をどのように評価すればよいのかがよく分かりました。



評価をすれば、次は指導計画です。構音の問題がある児童生徒がいる場合、病院での訓練をするかしないかには 3 つの視点があるそうです。まずは本人が気にしているか、そして本人が困っているか、最後に本人に訓練を受ける能力が備わっているかです。訓練では、失敗するかもしれないことを反復したり、負の評価をもらったりすることもあるため、それに本人が耐えられるかどうかということが重要で、もしもその力が備わっていない場合は、焦って訓練をせず、準備に取り組んだり、待つことも大切です。また指導しやすく効果を実感しやすい音から始めること、簡単なことから徐々に難しくしていくという考え方が大切だともおっしゃいました。

このようなスモールステップでの指導方法は特別支援教育全体に共通するものです。

また、指導は「完璧を目指さない」こと、効果が停滞している場合、子どもに無力感をずっと与え続けないこと、許容範囲を広げ、指導者に心の余裕が必要だという話も心に残りました。

後半は、構音指導の実際について具体的な指導方法を教えていただきました。口の体操や耳の訓練などウォーミングアップにあたるものや、カ行・サ行・タ行・ハ行・ラ行等、子どもが言いにくい子音を誘導する方法について、動画を使いながら細かい方法について説明していただきました。また指導する際、子どもが不安に思ったり苦痛を感じたりしないよう、指導者が気を付ける点についても触れられ、決して子どもに無理をかけず、子どもが笑って帰れる雰囲気を作ることが大切、とおっしゃっていました。通級指導だけではなく教育の現場全体で大切な内容が盛りだくさんのお話でした。

<参加者アンケートより感想> (一部抜粋)

- ・実例を使っの演習や指導の方法を教えてください分りやすかった。
- ・これまでクラスの中に構音について気になる子がいても、対応が取れずに時間が過ぎたり、保護者に子どもの状況を伝えたりするだけだった。今回指導方法が分かってよかった。
- ・子どもの発音を聞き取る耳を持つことが大切だと分かった。・構音についての講座は少ないのでありがたかった。
- ・「完璧を目指さない、般化は本人の努力」という言葉が心に残った。
- ・今回の講座で指導の指針が持てたので、これからは楽しんで指導ができそうです。

平成 30 年 1 月 20 日 (土) に京都市北文化会館にて府民講座「私の選択～自立・就労とは～」を開催します。詳細・申込は SSC ホームページを御覧ください。

